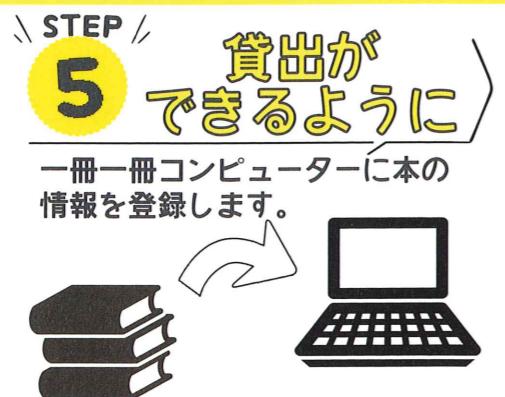




図書館の流儀

本が書棚に並ぶまで

図書館の本は、本の選定から書棚に並ぶまで様々な工程があります。今回はそちらをご紹介します。



北杜市図書館ヤベントカレンダー

12月

- 6(金) 農の学校 第1回(すたま)
- 7(土) 声の文学全集第71巻(ながさか)
- 7(土) ワイン講座(小淵沢)
- 8(日) 自分らしく生きるために
～外ドリンク・ケア・プランニング～(はくしゅう)
- 11(水) 北杜の里のホントの自然(明野)
- 14(土) 第4回 土曜ことば楽(金田一)
- 15(日) クリスマス特別おはなし会(ながさか)
- 21(土) 社のクリスマス会(金田一)
- 21(土) おはなしひろばクリスマス会(はくしゅう)
- 22(日) クリスマスおはなし会(たかね)

1月

- 11日(土) 新春お茶会(金田一)
- 11日(土) 新春!読むじゃん聞くじゃん大人紙芝居(はくしゅう)
- 13日(月)新春スペシャルアリスおはなし劇場(すたま)
- 25日(土)冬のおはなし広場(金田一)
- 26日(日)初笑いおはなし会(ながさか)
- 27日(月)ブックカフェ(明野)

2月

- 5日(水) 豆まきおはなし会(明野)
- 14日(金) 農の学校 第2回(すたま)



※予定が変更になる場合もあります。詳細は各図書館へお問い合わせください。

編集後記 私は今回初めて「やまね便り」に携り構成を担当しました。「図書館の魅力を分かりやすく、また見やすい誌面」と思い編集したつもりです。いかがでしたか…? 図書館では年末年始も、さまざまなイベントを用意し、スタッフ一同お待ちしております。(か)

発行日 令和元年11月25日 編集・発行 北杜市図書館 問い合わせ 北杜市中央図書館(金田一春彦記念図書館) TEL 0551-38-1211 FAX 0551-38-1126
創刊号 平成17年3月31日(年3回発行)



北杜市図書館総合情報誌

70号

やまね便り

～ことばを紡いで20年～ 第20回金田一春彦ことばの学校



左から、妻 玉江、長女 美奈子、次男 秀穂、長男 真澄

* 当日の授業内容については中面の記事をご覧ください。

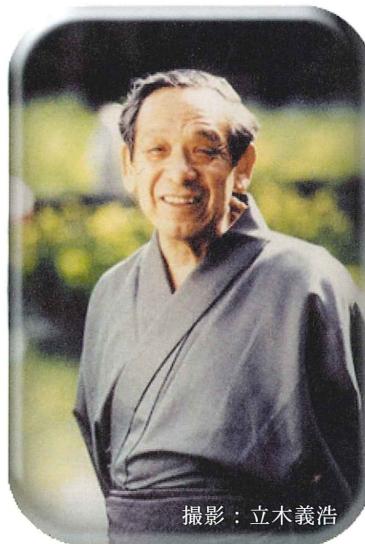
8月31日(土)須玉ふれあい館にて第20回金田一春彦ことばの学校が開催されました。

今年は20回目の節目の会となり春彦先生の長男である金田一真澄校長から、「今回をもってことばの学校については一区切りをつける」とのお話がありました。長年にわたりことばの学校を支えてきた実行委員の方々に対しては、多くの方からねぎらいの声が寄せられました。

八ヶ岳を故郷のように愛し、大泉町に山荘のあった故金田一春彦先生がその蔵書を寄贈したことから、現在の金田一春彦記念図書館は創設しました。

そしてその図書館を起点として地域住民が集い、言葉に関するセミナー、ワークショップなどを春彦先生を校長に迎えて開催しようと動きだしたのが「ことばの学校」の始まりです。

平成16年に春彦先生がお亡くなりになった後も、多くの地域住民がその意思を継いで20年続けてきました。



撮影:立木義浩

～やまね便り70号トピックス～

私の本棚・図書館の流儀・やまねちゃんのたび

私の本棚

My Bookshelf Vol.5

おすすめの本

『血脉』佐藤愛子 著 文藝春秋

(全館 所蔵)



父の佐藤紅緑、兄のサトウハチロー、そして自分自身も含めて佐藤家に登場するいずれも個性豊かな人々を痛快な筆致で描写。

大正から昭和に至る日本の文人一家の歴史でもあります。ユーモラスで切れ味鋭い文章が大好きで、昔、佐藤さんに大ファンですと声をかけると、「私は佐藤家に伝わる悪しき血について書こうと思っているの。あなたもお書きなさい」と言われました。

でもなかなか書けません。

『松風の家』宮尾登美子 著 文藝春秋

(明野・たかね
・小淵沢 所蔵)



同じく明治から昭和にいたる茶道の家元をモデルにしたと思われる年代記です。

彼女の文体は佐藤愛子とは対照的で、読んだ時ちょっと違和感があって、独特のくどさがあります。でも読んでいくとそのくどさが癖になって、やめられなく不思議な魅力も...。「家」の歴史がもつ圧倒的な存在感をあらためて感じる1冊でもあります。

おすすめ本を紹介する「私の本棚」
第5回は、フリーライターの
田中美奈子さんです。

学者の家に生まれたのだから当然かもしれません、わが家には嫌になるほど書籍が積まれていました。廊下や畳の上に積まれた本の上は仕方なくまたいで歩いていたし、階段まで占領されてからは、かろうじて残った狭い隙間を縫って昇り降りするような状況でした。だから書籍には邪魔という思いしかありませんでした。

しかし本が嫌いかというと、むしろ大好きで子供の頃は本ばかり読んでいる、どちらかというとネクラな少女でした。夢中になって本を読みながら下校中、電柱に激突し脳震盪を起こしたこともあります。家には難しい本だけではなく、近代文学全集などがあったので、夏目漱石とか芥川龍之介とか読み浸っていました。

大人になってからはあまり本を読まず、むしろおしゃべり人間になりました。これは父の遺伝かもしれません。父はおしゃべりが大好きで、食事の時は外であったことを面白おかしく話すのが日課。でも家族がふんふんと聞いてあげないと不機嫌になります。最近の自分を見て、そんな血を感じるときが多くなりました。

お勧めする本は佐藤愛子の「血脉」と宮尾登美子の「松風の家」です。どちらも明治、大正、昭和へと受け継がれていく年代記ですが、時には呪い、時には戦い、時には押しつぶれそうになりながら家と大奮闘する人々に、何か共鳴する思いがあります。

フリーライター たなか みなこ
田中 美奈子



金田一春彦の長女。眞澄、秀穂の姉。立教大学文学部卒業。

大学時代から父春彦に文章の書き方の手ほどきを受け、父の仕事を手伝う。

結婚後ライターへの道を進み、ゴルフ雑誌のライターを務めるかたわら、平成6年には「オーガスターの妻たち」でカネボウヒューマンドキュメント入賞。

日本ペンクラブ会員。

第20回金田一春彦ことばの学校 こぼれ話

1校時：方言川柳表彰式～題「つづく」～ 金田一春彦賞

(それでは)
大人の部 「ふんじやあ」と言ってもつづく立ち話 甲州市 田口 裕人
(そのくらいにして)
子どもの部 まだゲーム ほのけんにして ママおこる 泉小1年 浅川 紫音

4校時：金田一秀穂氏×ロバート キャンベル氏対談「私の大好きな日本語」

5月に出版されたキャンベル氏著作の『井上陽水英訳詞集』は、病床で井上陽水を聴いていて、英訳してみたことがきっかけだったそうです。それが自分のセラピーになったこと、英語に翻訳して読んだ情景を日本語に戻したときに同じような追体験ができるように心がけたことなど、次々と興味深いお話を伺いました。

「好きな日本語は？」との会場の質問に、「世界中で対立が増えている今の時代こそ、日本語的な社会空間（間接話法が入り、引いたり押したりできる）が大切」と述べられました。

例えとして、「こぼれる」という言葉を挙げ、「英語の『overflow』には容器から溢れた、良くないこと、避けたいことのニュアンスがあるが、日本語の『こぼれる』は、良くないことのニュアンスのある一方、笑みがこぼれる、こぼれ幸いのように、素敵なもの一つのメッセージとして捉えている、日本語ならではの表現」とおっしゃり・・・、「今、こぼれものを集めています」とキャンベル氏は締めくくられました。



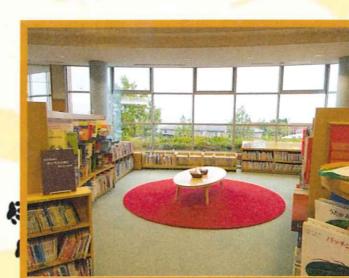
やまねちゃんのたび in 金田一



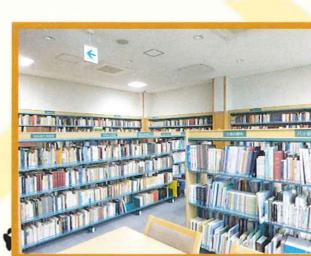
こんにちは！
今日は金田一春彦記念図書館に
やってきたよ♪
どんな図書館かな？
さっそく行ってみよう！



この図書館には「金田一春彦ことばの資料館」があるんだ！
貴重な資料を間近で見ること
ができるよ。



ここは絵本コーナー。
天気が良いと富士山と北岳
が見えるんだって！



北杜市にゆかりがある人
の本や地域資料が
たくさん！



森の中を歩いて湧水をみて
たよ。普段ぼくたちが何気なく使っている水について考
えることができたよ！



今日は湧水講座。今度散策する湧水について学んで
きたよ。ぼくも一緒に行きたくなっちゃった！



金田一春彦記念図書館はことば関連の本をたくさん集めているんだって。
知らなかった人は、ぜひ行ってみてね。今度はむかわ図書館に行くよ。お楽しみに！